

令和2年度カラス生息状況調査及び農業被害防止対策の立案(長野県)

- 長野駅を中心とする市街地をねぐらにしているカラスの餌場の特定及び行動範囲の明確化により、農業被害防止対策立案のための基礎データを収集
- カラスによる農業被害が発生している地域におけるカラスの行動調査に基づき被害防止対策を立案

取組内容

- 長野駅を中心とする市街地をねぐらにしているカラスの餌場の特定及び行動範囲の明確化により、農業被害防止対策立案のための基礎データを収集



長野駅ねぐら(令和2年11月)



鳥よけネットからはみ出た可燃ごみ袋

- カラスによる農業被害が発生している地域におけるカラスの行動調査による被害防止対策立案



冬季にリンゴの廃果を食べるハシブトガラス



園地に残されたブドウを食べるハシボソガラス

成果

- カラスの生態として、半径15km以上を移動して採食するとされていたが、長野駅をねぐらとするカラスは、ねぐらから半径5km程度の範囲の畑作地域を餌場とし、ねぐらと餌場を行き来していることが判明
- カラスによる農業被害が発生している地域におけるカラスの行動として、栽培物や自然界の餌が少なくなる冬季において、果樹園に放置されている廃果を餌としており、餌場からごく至近距離の山林にねぐらを設けていることが判明
- 対策は、個体数を減らすことが重要。そのために、冬季の餌の広域的な排除が必要であることが明確に



令和2年度カラス生息状況調査及び農業被害防止対策の立案(長野県)

きっかけ・背景

- 長野駅を中心とするカラスによるフン害などの生活被害
- 農林業被害額が、鹿、クマについて3番目に多く、カラスによる被害のほとんどが農業被害
- カラスによる農業被害額が過去10年横ばいの状況

課題

- 市街地をねぐらにしているカラスと、畑作地域の農作物や放置果樹を餌にしているカラスの関係が不明
- 被害対策の範囲が明確でなく、対策実施に至らない状況

Step1現状把握(R2)

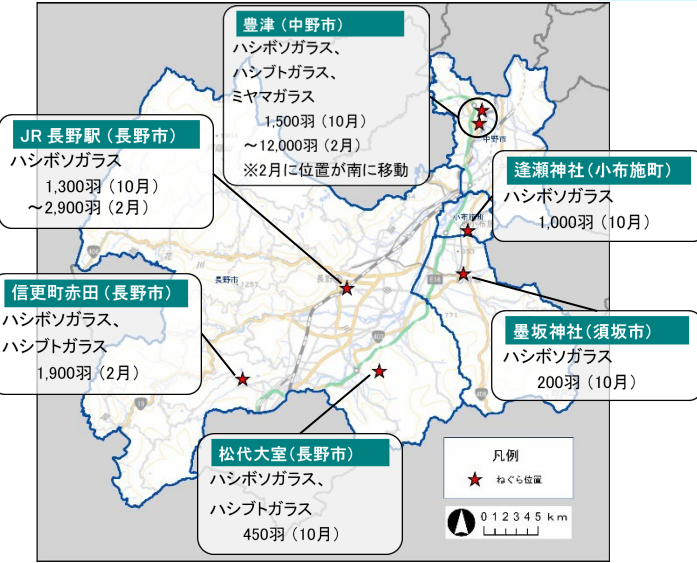
- 市町村、JA、生活者へのカラス被害状況及び目撃状況のアンケート調査による現状把握と調査範囲の設定

Step2移動経路調査(R2)

- 市街地のねぐらを起点に、日中の移動経路をモニタリング調査
- カラスの群れの規模変化に合わせ、調査を3回実施
- カラス生態記録のための撮影を実施

Step3 啓発資材作成(R2)

- カラスの移動経路や餌場、ねぐらを表すマップを作製
- カラスの生態や対策を呼びかけるミュージックビデオを作成して配信



県内TVにて対策を広報



啓発動画の二次元コード



カラス対策リーフレット掲載HPの二次元コード

取組の特色

- 市街地と畑作地域の間の移動経路について、生活被害発生地域を起点とした移動経路を把握することで、農業被害防止対策実施エリアを明確化
- 個体数を減らすことで、都市部での生活被害、畑作地域での農業被害のどちらも減少できることから、農業者のみならず、都市部生活者に対してもカラスの生態や採食行動に関する情報を届ける取り組みを実施

取組による成果

- 市街地をねぐらとするカラスの行動範囲や餌場を特定
- カラスの生態や生活被害、農業被害の現状、今後の対策について、マスメディアにて広く周知
- 冬場の餌を徹底的に除去することの重要性が判明し、対策範囲について明確化